

## 巻 頭 言

# 魅力ある学会を目指すために

理事長 新 野 宏

日本気象学会は昨年4月に公益社団法人に移行しました。学会の運営に関わる様々な手続等は新法人制度に適合するように改正されましたが、学会の目的は「気象学、大気科学等の研究を盛んにし、その進歩をはかり、国内及び国外の関係学協会等と協力して、学術及び科学技術、並びに文化の振興及び発展に寄与すること」(定款第3条)となっており、移行前の社団法人と本質的に変化はありません。公益社団法人への移行を機に、さらに魅力ある学会を目指すにはどうすれば良いか、会員の皆様と共に考えていきたいと思えます。

気象学会は、基礎的・応用的な気象学・大気科学やこれに関連する幅広い学問分野の研究者、気象業務を通して社会に貢献する国・自治体・民間企業の気象技術者、大学・学校等の教育関係者、気象愛好家などの会員から構成されています。会員の方々が学会に求めるものは多種多様ですが、すべての会員に共通するのは、大気現象や気象技術に関する新しい知識を求める強い欲求、自らの新しい発見や成果を発表し、会員相互の議論などを行って、研究や技術開発の成果をさらに発展させたいという意欲ではないでしょうか。

これらの要望に応える最も重要な学会活動は、大会等の講演会と学術雑誌の刊行です。大会での講演者が次第に増えていることは大変喜ばしいことですが、一方で講演時間が短くなり、十分な内容の紹介や質疑ができなくなっているという問題もあります。会場の確保や実行委員会の負担、経費など、考慮すべき多くの課題がありますが、講演企画委員会で改善のための議論を重ねていただいているところです。

1989年に発足した研究連絡会制度は、大会での講演時間不足を補うという目的もありました(天気36巻3号)が、この制度の立ち上げに関わられた木田前理事長(当時総合計画担当理事)は、「将来はアメリカ気象学会のconferenceのように、大会とは別に独り立ちした活動に発展すれば」という期待を述べられてい

ました。現在、13の研究連絡会がありますが、非静力学数値モデル研究連絡会のように定期的に国際ワークショップを開催している研究連絡会もあります。大会との相補的な役割のみならず、様々な発展の可能性を考えて活動いただければと願う次第です。

学術雑誌のうち「天気」では、毎号、会員一人一人が興味を持てる記事が掲載されることを目指した編集をお願いしています。JMSJ(気象集誌)とSOLAは、海外の大手出版社による寡占が進み多くの課題が出てきている科学雑誌の中にあつて、学会固有の編集方針を貫くために独自出版を維持してきている貴重な雑誌です。2誌の発展のためには会員の皆さんが良い論文を投稿していただくと共に、2誌に掲載された論文を積極的に引用していただくことも重要です。

最近では、誰もがインターネット上で自由に読むことのできる「オープンアクセスジャーナル」が増えつつありますが、JMSJは2001年から、「天気」は2002年から、SOLAは2005年から、無料で一般に公開してきました。このことは広く世界の会員外の人々に読んでもらえるという利点の一方で、学会に所属するメリットは何かという課題を内包しています。

昨年12月に、会員の皆様には電子メールアドレスを含む会員情報登録のお願いをさせていただきました。気象学会では、現在、会員専用のサービスを充実させるため、会員用アカウントの設定を検討しています。上記の会員情報は、そのための基本情報としても利用させていただく予定です。会員用アカウントでは、過去の気象研究ノートのアーカイブ資料を無料で閲覧可能にするなど、様々な会員サービスを利用いただけるようにしたいと考えています。会員の皆様には、ご意見やご提案をお寄せいただければと思います。

学会の最大の使命は気象学・大気科学の研究と気象技術の発展に寄与することですが、そのために学会をいかに利用するかは会員の皆様の創意工夫と行動力に大きく依存します。魅力ある学会を実現するために、皆様のお力添えをお願いする次第です。